

## ○ワークショップ 「YNU-NANZAN ファイナンス」

開催責任者 経営学部 竹澤直哉  
2020年 11月 15日  
2021年 3月 13日  
オンライン開催 (Zoom ミーティング)

ワークショップは以下のとおり、開催された。

### ◇研究目標

発表の機会が少ない大学院生や若手研究者に対して、早い段階での研究成果について、情報交換することによって最新の研究動向を学ぶ機会を設ける。今年度は資本市場、リスク管理や不動産などに関する大学院生の研究について行う。

本ワークショップは南山大学経営学部教員によって始められた日本最初のファイナンス専門のワークショップであり、40年を超える期間、継続的に財務論・ファイナンス理論研究の推進において重要な役割を果たしてきた。現在は、横浜国立大学と隔年で開催されており、今年から一橋大学など、この分野のトップの研究者が参加し、質の高い議論が行われた。更に、近年は若手の研究者や実務家を交えた形で開催することにより、ファイナンス分野への継続的な貢献を目指している。現在、WSの参加者や運営しているメンバーの多くは、大学院時代から本WSでの発表を通して業績を積み重ね(センターWSを含む)、この分野の研究者となっている。これはWSで継続的に研究成果を出し続けていることによるところが大きい。

### ◇報告者および題目

第1回 2020年11月15日(日)

座長 : 伊藤有希 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院国際社会科学部門准教授)

報告者 : 武内幸生 (南山大学大学院社会科学研究科経営学専攻博士課程後期)

タイトル : 「企業保有有休不動産の有効活用による企業業績への効果」

座長 : 森田洋 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院国際社会科学部門教授)

報告者 : 小林礼実 (名古屋学院大学経済学部准教授)

タイトル : "Lessons from Mergers and Acquisitions of Regional Banks in Japan  
: A First Look"

座 長 : 竹澤直哉 (南山大学経営学部教授)  
報告者 : 王姗姗 (WangShanShan) (横浜国立大学国際社会科学府経済学研究科)  
タイトル: 「住宅購入の意思決定が家計の金融ポートフォリオに与える影響  
—中国都市部のパネルデータに基づく実証分析」

第 2 回 2021 年 3 月 13 日 (土)

座 長 : 竹澤直哉 (南山大学経営学部教授)

報告者 : 菊地和宏 (一橋大学大学院経営管理研究科)  
タイトル: 「財務柔軟性と大型投資の実行可能性」

報告者 : 柳樂明伸 (一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構研究補助員)  
タイトル: 「投資家の歪度への選好が倒産リスクアノマリーに与える影響」

報告者 : Marc Bremmer (南山大学経営学部教授)  
田中礼実 (名古屋学院大学経済学部准教授)  
タイトル: “Lessons from Mergers and Acquisitions of Regional Banks in Japan  
: What Does the Stock Market Think?”

## ◇ワークショップの討論内容

### 開催方法

ワークショップは Zoom 開催され、報告者が画面共有で資料を提示しながら報告を行った。座長がマイクオンにした質問者を指名する形で質疑応答の司会および時間管理を行った。活発な議論が行われたため、全体の休み時間を取らず、60 分全部を報告と質疑応答に充てることとした。また、閉会後も Zoom を用いた議論が活発に行われた。

### 目標の達成度

今年度の研究目標のひとつは、大学院生や若手研究者に対する発表の機会を設け、早い段階でのフィードバックを与えることであった。発表者は博士課程および博士課程に進学予定である大学院生 3 名と研究所や准教授の若い研究者であり、その研究成果を発表する機会を 2 回設けることができたことからこの目標は達成されていると言える。

また、報告者のメリットとして、幅広い視点からのフィードバックや意見交換を行う場を提供することができた。とくに、指導教員から博士課程の学生にとって良い機会になったとの意見が寄せられた。一方、参加者のメリットとして、直近の研究テーマに触れることで自らの研究テーマや研究手法について客観的に考える機会となった。

第1回目のWSでは、はじめに報告者：武内幸生（南山大学大学院社会科学部研究科経営学専攻博士課程後期）が「企業保有有休不動産の有効活用による企業業績への効果」というタイトルで企業不動産が企業の財務諸表に与える影響について報告し、議論された。続いて、王姗姗（WangShanShan）（横浜国立大学国際社会科学部経済学研究科）が「住宅購入の意思決定が家計の金融ポートフォリオに与える影響—中国都市部のパネルデータに基づく実証分析」というタイトルで個人の住宅購入に関する意向が投資に与える影響などについて報告し、議論された。以上、不動産に関するテーマで大学院生が報告を行った。

第1回、2回を通して、報告者：Marc Bremmer（南山大学経営学部教授）、田中礼実（名古屋学院大学経済学部准教授）は、“Lessons from Mergers and Acquisitions of Regional Banks in Japan: What Does the Stock Market Think?”というタイトルで、地方銀行業界の再編成が資本市場（株式市場）に与える影響について報告し、銀行が抱えるリスクがどのように評価されているかについて議論された。2回の報告を通して、その研究内容を高めることに成功した。

第2回では、柳樂明伸（一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構研究補助員）が「投資家の歪度への選好が倒産リスクアノマリーに与える影響」というタイトルで信用リスクとそのリスク管理方法を投資家行動から分析した報告を行い、菊地和宏（一橋大学大学院経営管理研究科）は「財務柔軟性と大型投資の実行可能性」というタイトルで、資本市場の資金調達と企業の財務リスク管理に関する報告を行い、活発な議論が行われた。以上から、予定されたテーマを含む内容のWSとなった。

#### ワークショップ継続の意義

40年を超えて開催を継続してきたワークショップであるため、大学院時代から本ワークショップでの発表を通して業績を積み重ねた研究者が今回のワークショップに参加・報告をすることとなった。このような実績は、世代を超え、長い間、本ワークショップを継続的に開催してきた成果である。本ワークショップは単年度のテーマや討論内容という短期的な視点だけでなく、研究者育成という点からも継続的に開催する意義は大きいと言える。

#### ◇研究成果発表

Mostafa Saidur Rahim Khan, Kato Hideaki Kiyoshi, Bremer Marc, “Short sales constraints and stock returns: How do the regulations fare? ”

Journal of The Japanese and International Economies, Vol. 54 (2019) , Elsevier,  
October 2019.